

「心のケア」に関する実態調査—個別票

(直接処遇職員様)

近年、児童養護施設入所児童の入所に至る経緯はますます複雑化・多様化してきており、その対応においてもより個別的で木目細かい配慮を要するようになってまいりました。また国の施策としても、2006年度より施設内心理士の常勤配置が本格的に導入され、入所児童に対する心理的な援助はますます重視されるようになっていきます。

本調査は、児童養護施設に入所している児童に対して行われている「心のケア」実態を、児童一人一人において把握し、今後のより良い援助に活かそうとするものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

本調査は、兵庫県児童養護連絡協議会心のケア専門委員会の協力の下、神戸大学大学院医学研究科展開医科学環境応答医学精神神経科・田中究、甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻・森茂起、大阪大学人間科学研究科臨床教育学講座・西澤哲が統括責任を持ち、実施いたします。また、調査結果は本調査の目的のみに活用するものであり、原資料は全て田中究・森茂起・西澤哲が管理し、調査終了後は全て廃棄いたします。

本調査の結果につきましては、個人情報に十分配慮して兵庫県児童養護連絡協議会心のケア専門委員会を通して公表し、学会誌等に結果を発表する予定です。本調査は、厚生労働科学研究費補助金(17130301) (研究代表者：奥山真紀子「児童虐待等の子どもの被害及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究」) の補助を受けて行われます。

施設名 ()
 記述者 ()
 無記名でも結構です。
 記述月日 ()

※ はじめに、援助・治療を受けている子ども自身についておききます。

児童氏名 () 性別 (男・女)
 児童年齢 () 歳

Q1 現在の施設に入所するまでの経過を教えてください。初めて施設を利用したのを 1 回目とし、表に記入してください。6 回目以降は備考欄に記載してください。

| 回数 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 施設の種類 | | | | | |
| 1. 一時保護所 2. 乳児院 3. 児童養護施設 4. 情緒障害児短期治療施設 5. 児童自立支援施設(教護院) | | | | | |
| 期間 | 年 月～ 年 月 | 年 月～ 年 月 | 年 月～ 年 月 | 年 月～ 年 月 | 年 月～ 年 月 |
| 措置理由 | | | | | |
| 1. 死亡 2. 行方不明 3. 離婚 4. 病気 5. 服役 6. 非行 7. 虐待 8. 怠学(不登校) 9. 家庭環境不良 10. 貧困 | | | | | |

【備考欄】

Q2 発達検査を実施している場合は実施日と結果をご記入ください。複数回行っている場合には、最終判定日のものをお書き下さい。結果は WISC-III であれば「言語性 IQ・動作性 IQ・全 IQ」、新版 K 式であれば「姿勢・運動・認知・適応・言語・社会・全」のそれぞれについてお書きください。詳細不明の場合には簡単で結構です。

A 実施済み

実施日：() 年 () 月 () 日

検査法：() 結果：()

B 未実施

Q3 継続的な治療が必要な病気をもっていますか。あれば受診年齢と病名をわかる範囲でご記入ください。(例：てんかん、糖尿病)

| 年齢 | 病名 |
|-----|-----|
| () | () |
| () | () |
| () | () |
| () | () |
| () | () |

Q4 同居していた家族やその他の親戚で精神科、心療内科、カウンセリング等を利用していた、もしくは現在利用している人はいますか。いる場合はわかる範囲で続柄と病名をお答えください。

A いる

続柄 () 病名 ()

() ()

B いない

Q5 保護者またはそれに代わる養育者と定期的・継続的な関わりがありますか。○で囲んでください。

1. あり 2. なし

Q6 保護者またはそれに代わる養育者との関係は安定していますか。○で囲んでください。

1. 安定 2. やや安定 3. やや不安定 4. 不安定

Q13 各々の心のケアを導入したきっかけはなんですか。ア、イ、ウの欄に番号をご記入ください。

1. 本人の希望 2. 学校からの要請 3. 家族の希望
 4. 施設内の直接処遇職員の判断 5. 施設内心理職の判断
 6. 前相談機関からの紹介 6. その他（具体的に）

| ア | イ | ウ |
|---|---|---|
| | | |

Q14 各機関の通院・通所にかかる時間を選択しア、イ、ウの欄に番号をご記入ください。

1. 10分以内 2. 10～30分 3. 30分～1時間 4. 1～1.5時間
 5. 1.5時間以上

| ア | イ | ウ |
|---|---|---|
| | | |

Q15 通院・通所は誰としていますか。ア、イ、ウの欄に番号をご記入ください。

1. 単独で 2. 家族 3. 特定の職員 4. 特定の職員と他の子ども
 5. 不特定の職員 6. 不特定の職員と他の子ども

| ア | イ | ウ |
|---|---|---|
| | | |

Q16 どのくらいの頻度で通っていますか。それぞれについてア、イ、ウの欄に番号をご記入ください。

1. 週2回以上 2. 週1回 3. 2週に1回 3. 月に1回 4. その他（ ）

| ア | イ | ウ |
|---|---|---|
| | | |

Q17 1回の相談・診察の時間はどれくらいですか。それぞれについてア、イ、ウの欄に番号をご記入ください。

1. 15分程度 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. それ以上

| ア | イ | ウ |
|---|---|---|
| | | |

Q18 それぞれの機関の援助・治療内容をわかる範囲でお答えください。

| ア | イ | ウ |
|---|---|---|
| | | |

Q19 診断・見立てをわかる範囲で教えて下さい。

[]

Q20 保護者は本ケースのア、イ、ウのいずれかの「心のケア」に同行、同席していますか。

1. はい (→Q21にお進み下さい) 2. いいえ (→Q22にお進み下さい)

Q21 Q20で「はい」を選択された場合は以下の質問にお答え下さい。

Q21-1 保護者はどの程度関わっていますか。

1. ほぼ毎回 2. 間隔を決めて定期的に 3. 必要に応じて 4. その他 ()

Q21-2 保護者の方が関わったきっかけはなんですか。

1. 子どもの希望 2. 保護者の希望 3. 施設側の勧め
4. 心のケア担当者の勧め 5. その他 ()

Q22 Q20で「いいえ」を選択された場合は以下の質問にお答え下さい。

Q22-1 保護者が関わる必要性を感じますか。

1. 感じる 2. やや感じる 3. あまり感じない 4. 感じない

Q22-2 その理由を教えてください。

[]

Q22-3 保護者に対する「心のケア」についての説明はどのように行っていますか。

1. 治療者、援助者から
2. 施設の直接処遇職員から
3. 施設長から
4. 児童相談所のケースワーカーから
5. 行っていない
5. その他（ ）

Q23 援助者・治療者からの情報を元に、日常生活の中で工夫されたことや関わりの変化がありますか。あれば具体的にご記入ください。(些細なことでも結構です)

[]

Q24 子どもが「心のケア」を受け始めてから、受診・相談理由となった問題に何らかの良い方向の変化がみられましたか。

1. ある
2. ややある
3. あまりない
4. ない

Q25 子どもが受けている「心のケア」は全体的に効果があると思いますか。番号を選んでその理由をご記入ください。

1. あると感じる
2. ややあると感じる
3. あまりないと感じる
4. ないと感じる

理由：

[]

ご協力ありがとうございました

「心のケア」に関する実態調査—個別票

(心理療法担当者様)

近年、児童養護施設入所児童の入所に至る経緯はますます複雑化・多様化してきており、その対応においてもより個別的で木目細かい配慮を要するようになってまいりました。また国の施策としても、2006年度より施設内心理士の常勤配置が本格的に導入され、入所児童に対する心理的な援助はますます重視されるようになっていきます。

本調査は、児童養護施設に入所している児童に対して行われている「心のケア」実態を、児童一人一人において把握し、今後のより良い援助に活かそうとするものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

本調査は、兵庫県児童養護連絡協議会心のケア専門委員会の協力の下、神戸大学大学院医学研究科展開医科学環境応答医学精神神経科・田中究、甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻・森茂起、大阪大学人間科学研究科臨床教育学講座・西澤哲が統括責任を持ち、実施いたします。また、調査結果は本調査の目的のみに活用するものであり、原資料は全て田中究・森茂起・西澤哲が管理し、調査終了後は全て廃棄いたします。

本調査の結果につきましては、個人情報に十分配慮して兵庫県児童養護連絡協議会心のケア専門委員会を通して公表し、学会誌等に結果を発表する予定です。本調査は、厚生労働科学研究費補助金(17130301) (研究代表者：奥山眞紀子「児童虐待等の子どもの被害及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究」)の補助を受けて行われます。

下記の子どもについておたずねいたします。 ※施設側で記入してください

子どもの氏名 ()

性別 (男 女) 年齢 () 歳

入所施設名 ()

※ まず、あなた自身についてお答えください。

(複数の子どもを担当している場合でも、お手数ですがそれぞれにご記入下さいますようお願い申し上げます。)

まず、以下のフェイスシートにあなたご自身についてご記入ください。

| |
|--|
| a. 氏名 () (イニシャルでも無記名でも結構です) |
| b. 性別 (男 ・ 女) c. 年齢 (20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上) |
| d. 所属および臨床経験年数(年)※以下の中から主な職域を一つ選択してください。 (医療機関(専門：小児科・精神科・その他) ・ 教育関係機関 児童福祉関係 ・ それ以外の福祉関係 ・ 民間相談機関 ・ 大学学生相談室 その他 ()) |
| e. 現在の施設での臨床経験年数 (年 ケ月) |
| f. 他の児童養護施設での勤務経験 (有 ・ 無) →有と答えた方 (年 ケ月) |
| g. 保有する資格 (医師 ・ 臨床心理士 ・ 学校心理士 ・ 発達心理士 認定心理士 ・ 教員免許 ・ 精神保健福祉士 ・ 社会福祉士 その他 ()) |
| h. 勤務形態 (常勤 ・ 非常勤 ・ その他) { 常勤を選択された場合、常勤になってからの勤務年数をご記入下さい。(年) { 非常勤を選択された場合、具体的にご記入下さい。(週 日 計 時間) |
| i. 記述日 ()年 ()月 ()日 |

ここからは担当している子どもについてお答え下さい。

Q1 初診日、初回面接日をご記入下さい。

()年()月()日

Q2 本人の主訴（相談・受診の理由）を選択し○で囲んでください。（複数回答可）

1. イライラ 2. 不眠 3. 不安 4. 興奮 5. 攻撃性
6. 多動 7. 他害 8. 自傷 9. 食行動の問題（拒食、過食など）
10. 身体症状（頭痛、腹痛、過呼吸など） 11. 不登校 12. 対人関係の問題
13. 万引き 14. 無断外出（泊） 16. その他（ ）

Q3 施設にとっての主訴（相談・受診の理由）を選択し○で囲んでください。（複数回答可）

1. イライラ 2. 不眠 3. 不安 4. 興奮 5. 攻撃性
6. 多動 7. 他害 8. 自傷 9. 食行動の問題（拒食、過食など）
10. 身体症状（頭痛、腹痛、過呼吸など） 11. 不登校 12. 対人関係の問題
13. 万引き 14. 無断外出（泊） 15. その他（ ）

Q4 心のケアを導入したきっかけはなんですか。

1. 本人の希望 2. 学校からの要請 3. 家族の希望
4. 施設内の直接処遇職員の判断 5. 施設内心理職の判断
6. 前相談機関からの紹介 6. その他（具体的に： ）

Q5 どのくらいの頻度で通っていますか。

1. 週2回以上 2. 週1回 3. 2週に1回 3. 月に1回 4. その他（ ）

Q6 1回の相談・診察の時間はどれくらいですか。○で囲んでください。

1. 15分程度 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. それ以上

Q7 現時点での見立て、診断をご記入ください。

()

Q8 援助・治療の内容を選択し○で囲んでください。(複数回答可)

1. 言語面接
2. 薬物療法
3. 集団療法
4. 遊戯療法
5. 芸術療法
6. 認知行動療法
7. 音楽療法
8. 箱庭療法
9. サイコドラマ
10. その他 ()

Q9 同じ機関で子どもの「心のケア」を一緒に担当している方がいますか。

1. いる
2. いない

Q10 他の機関に同じ子どもの「心のケア」を担当している方がいますか。いる場合、直接連絡をとっていますか。

A 他の機関にいる

1. よく連絡をとっている
2. たまに連絡をとっている
3. 連絡していない

B 他の機関にはいない

Q11 施設の職員に提供している情報を選択し○をつけてください。(複数回答可)

1. 援助・治療方針
2. 具体的な援助・診察内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 診断名
6. 検査結果
7. 薬の説明
8. その他 ()

Q12 直接処遇職員から提供されている情報を選択し○をつけてください。(複数回答可)

1. 相談・受診理由以外の問題
2. 生育歴
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 学校での様子
7. その他の生活状況
8. 他機関での相談状況
8. その他 ()

Q13 互いの情報を交換する際の手段を選択し○をつけてください。(複数回答可)

1. 記録文書の共有
2. ケースカンファレンス
3. 職員会議
4. 通所・受診時の面談
5. 通所・受診時以外の連絡
6. 施設内での日常のやりとり
7. その他 ()

Q14 本ケースの養育者、家族について知りたい時はどうしますか。最もよく使う手段を一つ選択し○をつけて下さい。

1. 電話、面談などで直接話す
2. 施設職員にたずねる
3. 児童相談所に問い合わせ
4. 家族の援助・治療担当者に問い合わせ
5. その他 ()

Q15 保護者は本ケースの「心のケア」に関わっていますか。

1. はい (→Q16にお進み下さい)
2. いいえ (→Q17にお進み下さい)

Q16 Q15で「はい」を選択された場合は以下の質問にお答え下さい。

Q16-1 保護者はどの程度関わっていますか。

1. ほぼ毎回
2. 間隔を決めて定期的に
3. 必要に応じて
4. その他 ()

Q16-2 保護者の方が関わったきっかけはなんですか。

1. 子どもの希望
2. 保護者の希望
3. 施設側の勧め
4. 心のケア担当者の勧め
5. その他 ()

Q17 Q15で「いいえ」を選択された場合は以下の質問にお答え下さい。

Q17-1 保護者が関わる必要性を感じますか。

1. 感じる
2. やや感じる
3. あまり感じない
4. 感じない

Q17-2 その理由を教えてください。

()

Q18 「心のケア」をおこなって、主訴(相談・受診理由)となった問題に何らかの良い方向の変化がみられたと思われませんか。

1. あると感じる
2. ややあると感じる
3. あまりないと感じる
4. ないと感じる

Q19 最後に、本ケースの援助・治療にあられる中でお感じのことをご自由にご記入ください（困難と感ずる点や希望など）。

[]

****ご協力ありがとうございました****

「心のケア」に関する実態調査

(心理療法担当者様)

施設名 ()

近年、児童養護施設入所児童の入所に至る経緯はますます複雑化・多様化してきており、その対応においてもより個別的で目細かい配慮を要するようになってまいりました。また国の施策としても、2006年度より施設内心理士の常勤配置が本格的に導入され、入所児童に対する心理的な援助はますます重視されるようになってきています。

本調査は、現在児童養護施設において行われている「心のケア」の実態を把握し、今後のより良い援助に活かそうとするものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

本調査は、兵庫県児童養護連絡協議会心のケア専門委員会の協力の下、神戸大学大学院医学研究科展開医科学環境応答医学精神神経科・田中究、甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻・森茂起、大阪大学人間科学研究科臨床教育学講座・西澤哲が統括責任を持ち、実施いたします。また、調査結果は本調査の目的のみに活用するものであり、原資料は全て田中究・森茂起・西澤哲が管理し、調査終了後は全て廃棄いたします。

本調査の結果につきましては、個人情報に十分配慮して兵庫県児童養護連絡協議会心のケア専門委員会を通して公表し、学会誌等に結果を発表する予定です。本調査は、厚生労働科学研究費補助金(17130301) (研究代表者：奥山真紀子「児童虐待等の子どもの被害及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究」)の補助を受けて行われます。

Q4-2 「子どもへの日常的なケア」に従事することをどのように感じておられますか。
利点・困難とを感じる点など自由にお書きください。

[]

Q4-3 あなたが行っている「子どもへの日常的なケア」について、どの程度効果があると感じておられますか。またその理由もご記入ください。

効果について (1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない)

理由 []

Q4-4 「子どもへの日常的なケア」を行う上での、具体的な工夫をご記入ください。

[]

【Q5】 Q3で「特に必要な子どもへの心理療法」を選択した場合、ご回答ください。

Q5-1 あなたが心理療法を担当されている子どもの数を年齢別にご記入ください。

1. 幼児 名 2. 小学校低学年 名 3. 小学校高学年 名
4. 中学生 名 5. 高校生 名

Q5-2 担当されている子どもの主訴を、できるだけ全てご記入ください。

[]

Q5-3 心理療法で用いている技法を全てお答えください。

1. 遊戯療法 2. 言語面接 3. 芸術療法 (スクイグル・コラージュ等)
4. 箱庭療法 5. 認知行動療法 6. 音楽療法 7. サイコドラマ
8. 臨床動作法 9. その他 ()

Q5-4 あなたが行っている「特に必要な子どもへの心理療法」について、どの程度効果があると感じておられますか。またその理由もご記入ください。

効果について（ 1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない ）

理由 []

Q5-5 「特に必要な子どもへの心理療法」を行う上での、具体的な工夫をご記入ください。

[]

【Q6】 Q3で「集団療法・グループワーク等の援助」を選択した場合、ご回答ください。

Q6-1 あなたが集団療法・グループワークを担当されている子どもの数を年齢別にお答えください。

1. 幼児 名 2. 小学校低学年 名 3. 小学校高学年 名
4. 中学生 名 5. 高校生 名

Q6-2 担当されている子どもの主訴を、できるだけ全てご記入ください。

[]

Q6-3 集団療法・グループワークで用いている技法を全てご記入ください。

1. 遊戯療法 2. 言語面接 3. 芸術療法（スクイグル・コラージュ等）
4. 認知行動療法 5. 音楽療法 6. サイコドラマ 7. 臨床動作法
8. その他（ ）

Q6-4 あなたが行っている「集団療法・グループワーク等の援助」について、どの程度効果があると感じておられますか。またその理由もご記入ください。

効果について（ 1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない ）

理由 []

Q6-5 「集団療法・グループワーク等の援助」を行う上での、具体的な工夫をご記入ください。

[]

【Q7】 Q3で「心理検査・発達検査」を選択した場合、ご回答ください。

Q7-1 どのような心理検査・発達検査を行っておられますか、具体的な検査名もご記入ください。

1. 知能検査 ()
2. 質問紙人格検査 ()
3. 投影法人格検査 ()
4. 発達検査 ()

Q7-2 あなたが行っている心理検査・発達検査について、どの程度有効に使われていると感じておられますか。またその理由もご記入ください。

- (1. 有効に使われている 2. やや有効に使われている
3. あまり有効に使われていない 4. 有効に使われていない)

理由 []

Q7-3 心理検査・発達検査を行う上での、具体的な工夫をご記入ください。

[]

